

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2021年
10月12日
第123号

ハトムギ (イネ科)

今、第一圃場で花と果実が見られます。インド原産の一年草で、古くから東南アジアで栽培されているジュズダマの栽培品種とされています。日本へは中国を経て導入されました。花は晩夏から秋に咲き、果実は硬い苞に包まれ、熟すと暗褐色になります。苞が柔らかいのがジュズダマとの違いの一つです。ハトムギの名はハトが好んで食べることから。脱穀して種皮を除いた種子が生薬の薏苡仁（ヨクイニン）となり、利水滲湿薬として薏苡仁湯、麻杏薏甘湯などに配合、関節痛、神経痛、リウマチなどに利用されるほか、単独で日本の民間薬としてイボ取りや肌荒れ防止に使用されます。また、日本薬局方外生薬規格に「ハトムギ」の生薬名で包しように包まれた果実が収載され、茶剤として利用されます。

イランイランノキ

(バンレイシ科)

温室に入ってすぐ上を見上げると、ヒトデの様な形をした花が見られます。インドネシアやフィリピンを中心に、インド北部からオーストラリアの熱帯地域に自生しています。花の咲き始めは緑色で、やがて黄緑色から緑を帯びた黄色になります。花色が変わり始めると徐々に香りが強くなり、しおれ始める前には強い芳香を持ちます。花を水蒸気蒸留して得た精油ををイランイラン油として、シャネル5番・オープルミエールや、ティファニー、ディオールなど香水の原料にされています。イランイラン油の香りは、気分を安らかにする作用が期待できますが、他の精油類と比較すると高い皮膚感作性があり、皮膚のかぶれの原因となったりします。